

学力向上に効果のある取組事例

別府市立緑丘小学校

①「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」に向けた取組

取組の具体①: チェックテストを核とした組織的取組

【取組内容】

(1) チェックテスト

- ・チェックテスト後に学習内容の定着状況を確認し、授業時の再指導、宿題での指導、補充学習（みどりタイム）、長期休業時の課題としての取組等を実施した。
- ・授業改善の取組として「対話型学習＋児童が自分の言葉でまとめを書く活動」を実施した。（主として算数）
- ・2、3学期始チェックテストでは、実施前までの指導・支援の効果や定着状況を再確認した。

※チェックテスト

- ・各学期末まとめテスト（低学年：国算、中高学年：国算理）
- ・R2は「目標点80を超えた児童数比が学級の70%以上」を目標に実施

(2) その他の取組

- ・チェックテストに関する目標や取組は全て4点セットに明示し、各教職員の目標管理シートとも連動させた。
- ・補充学習（みどりタイム）や対話学習等の実施については教員セルフチェック等を用い、確実に実施させた。
- ・チェックテスト用Excelファイルを教務主任が管理。学級や学校の目標達成状況、得点分布等を確認して指導・支援に活かすようにした。

【1年間の取組の流れ】

○1学期末チェックテスト

- （1学期学習内容の定着状況の確認）
↓ 達成状況、職員取組状況確認

○2学期末チェックテスト

- （2学期学習内容の定着状況の確認）
↓ 達成状況、職員取組状況確認

○3学期末チェックテスト

- （3学期学習内容の定着状況の確認）
↓ 達成状況、職員取組状況確認
次年度1学期始チェックテスト

取組の具体②: チェックテストの分析を学年の取組につなぐ

【チェックテストの結果と4点セットの評価】

(1) チェックテストの結果を学年ごとに出し、そこから全校結果を導き、4点セットの評価につなぐ。

① 本年度1学期のチェックテスト（知・技）の結果

結果 目標達成児童の割合が70%を超えた教科数は32中28である。
達成率は、107.7%で、評価はSである。

② 本年度1学期のチェックテスト（思考・判断・表現）の結果

結果 目標達成児童の割合が70%を超えた教科数は32中24である。
達成率は、92.3%で、評価はAである。

③ 以上の結果・分析から学校全体の取組を検討する。

「思考・判断・表現」の達成率は、92.3%であることから、「知識・技能」同様、ほぼ定着していると考えられる。また、理科では、全学年が目標を達成していることから、理科的な「思考・判断・表現力」が育っていると考えられる。

しかし、「思考・判断・表現」の3教科における児童数の分布状況からも分かるように、60%以下では、「知識・技能」と比較して人数が多くなっている。このことから、個々の差が大きいことが伺える。そのことに対しては、各学年の見直しで、問題点を明らかにし改善するための取組を行う。

学校全体として、低くなっている要因の1つとして、知っている知識を自分なりに考え表現がうまくできていないことが考えられる。「思考・判断・表現」の不足を補うために、今年度は4点セットには『「児童の言葉によるまとめ記述」を算数実施時数の60%以上実施する。』を設定した。

セルフチェックの達成率は、92.4%である。児童の言葉によるまとめ記述については、今までも取り組んできたが、発達段階に応じたスモールステップ的な指導等を研究するとともに、「知識・技能」にかかる授業時間数と、「思考・判断・表現」にかかる授業時間数のバランス等、今後校内研究・研修を通して改善していく必要があると考える。

(2) 全校分析から学年分析へ

① 本年度(例:5年生)のチェックテストと大分県学力状況調査の結果分析と今後の取組について

1学期末のチェックテスト達成割合

(国語)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0%	0%	0%	11.6%	88.4%	88.4%
思考・判断・表現	0%	2.3%	7.0%	32.6%	58.1%	58.1%

(算数)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0%	0%	0%	18.6%	81.4%	81.4%
思考・判断・表現	0%	2.3%	25.6%	18.6%	53.5%	53.5%

(理科)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0%	0%	0%	14.0%	86.0%	86.0%
思考・判断・表現	0%	0%	9.3%	27.9%	62.8%	62.8%

大分県学力定着状況調査結果

【5年生】	国語			算数			理科		
	正答率	知識	活用	正答率	知識	活用	正答率	知識	活用
学校(A)	77.5	81.3	68.9	72.7	77.9	62.8	75.1	85.3	53.7
別府市(B)	70.7	75.4	60.2	67.9	73.7	56.9	68.0	76.8	49.5
県(C)	70.8	75.5	60.4	68.5	74.1	57.8	67.0	76.0	48.2
差(A-B)	6.8	5.9	8.7	4.8	4.2	5.9	7.0	8.5	4.2
差(A-C)	6.7	5.8	8.5	4.2	3.8	5.0	7.1	9.3	5.2

① チェックテスト(知識・技能)について

どの教科も知識・技能の目標得点80点以上の児童の割合が85%以上と積み上げの成果が表れている。基礎的・基本的な学習に繰り返し取り組むことや、視覚化に重点を置いた指導をすることが知識・技能の定着に繋がったと考えられる。しかし算数では正答率60～80%の児童が約2割を占めており、基礎的・基本的な学習の理解が不十分であることがわかる。算数は、既習事項の理解が新しい単元の学習の理解に直結するため、今後も既習事項の復習に力を入れて取り組むとともに、対話型授業・みどりタイムでの補習や教え合い・家庭学習などを活用することで弱点の強化を一層図っていく必要がある。

② チェックテスト(思考・判断・表現)について

理科は思考・判断・表現力の目標得点達成率は目標値を上回っているが、国語・算数は目標値を下回っている。特に、問題を正しく読み取るために必要な国語力、問われたことに対して自分の考えを適切に説明する力に課題があると感じる。語彙力を含めた基礎的・基本的な学習内容の定着とともに、対話型授業の中で自分の言葉を使って説明する機会をできる限り多く取り入れることで、思考・判断・表現力の向上をめざしていく必要がある。

③ 大分県学力状況調査の分析

3教科とも市、県正答率をともに上回っていた。みどりタイムや家庭学習で既習事項の復習に取り組んだ成果と言える。全国正答率を下回っていた問題は、【国語】・4学年の漢字を書く(-5.2P)・連用修飾語についての理解(-14.4P)・物語文の叙述を元に登場人物の気持ちを捉えること(-13.5P)・説明文を段落相互の関係を捉えて読むこと(-5.6P)【算数】・整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較(-8.1P)・およその面積(-8.1P)・面積の単位の関係(-16P)、二次表を使った求め方の説明(-6.7P)であった。【理科】・温度による物の体積の変化を利用したもの指摘(-10.8P)・折れ線グラフをもとに、水の量と温度を関係づけて記述する(-13.7P)・湯気が液体であること(-25.3P)であった。全体的に活用問題に課題があると考えられる。前学年までの学習内容をより一層定着させるとともに、活用問題に対応できるよう授業改善を図っていく必要がある。